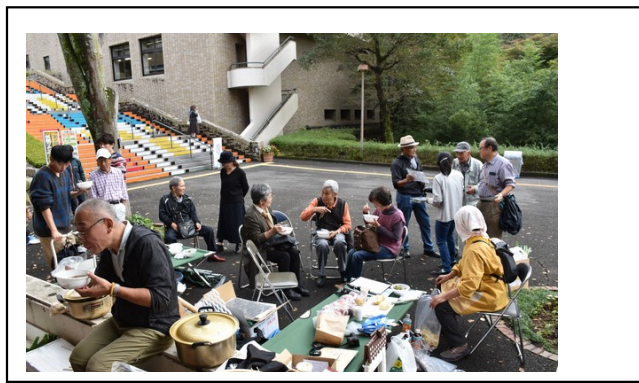


(活動報告書様式)

団体名	最上川 229 ネットワーク		
事業名	最上川がつなぐ流域と都市		
助成事業区分	協働助成事業(テーマ希望型)【テーマ:やまがたまちづくり活動支援事業】		
団体の 所在市町村	長井市	事業費	1,052,476 円
		うち助成金額	730,000 円



■事業目的

江戸時代に上流から河口まで航路が開かれ貴重な文化・歴史を重ねてきた本県を南北に貫流する最上川であるが、航路の物流の減衰や近年の少子高齢化に伴う人口減少により、流域の経済やコミュニティの崩壊が目前に迫っている現状を改善する為、都市住民との交流を通して流域の資源を再発見・魅力を発信し、関係人口の増加に寄与することを目的に事業を行った。

■実施内容

①ワークショップ

◆9/11 (1日目:現地視察)

- ・フラワー長井線成田駅(旧駅舎のまま)にて開会セレモニー
- ・支流の野川河川敷にてトラックバスの実態を学ぶ
- ・西根地区コミュニティセンターにて里山の現状と再生の取り組みを学び西根の森を視察
- ・りんご園にて果樹生産者の首都圏との係りを学ぶ

- ・白鷹竹公園にて生態系の現状と竹漁の実情を学ぶ
- ・荒砥で菜の花の種播体験
- ・蚕桑の田んぼアート見学、地域起しの取組と土地改良区より水資源の利活用を学ぶ
- ・白鷹温泉にて意見交換会

◆9/12 (2日目:旧長井小)

地域づくりの進め方のワークショップ開催

※ワークショップは法政大学生、白鷹高等専修学校生、首都圏と流域の住民30名参加

②芋煮会で最上川紹介

◆10/18~19 法政大学多摩キャンパス学園祭にて芋煮会出店(会員7名参加)し、最上川の舟運と切り離せない芋煮を提供、ブース訪問者に最上川を紹介

③最上川紹介DVDを制作

■事業の成果及び今後の展望

①事業の成果

◆大学生を含む都市住民を招き入れ、水や土に触れ、最上川の昔と今を聴き、トラックバスを見る等新しい感動

と共に外からの視点で最上川流域を観てもらい、意見交換することで流域の魅力を再発見できた。

◆流域の若者(白鷹高等専修学校生)を参画させ、最上川を中心としたまちづくりへの興味を深めてもらい、報告書を作成でき内外に広めることができた。

◆PR動画を作成し、参加者や関係団体に送付し多くの人々に最上川の魅力を紹介することができ、今後もこのPR動画を活用できる基盤ができた。

②今後の展望

◆米沢～白鷹～酒田の最上川流域との更なる交流促進。
◆ワークショップの提案を軸とし、首都圏の住民との連携強化。
◆流域文化に深い関係のある小鵜飼船の模型作りと、舟運文化の学習。

◆最上川を実際にボートで下り、川の生態系やプラスチックごみ等について学び、環境を守る活動に資する。